

# 「ずっといっしょ ひたちのさくら」

桜の日常管理と保全について

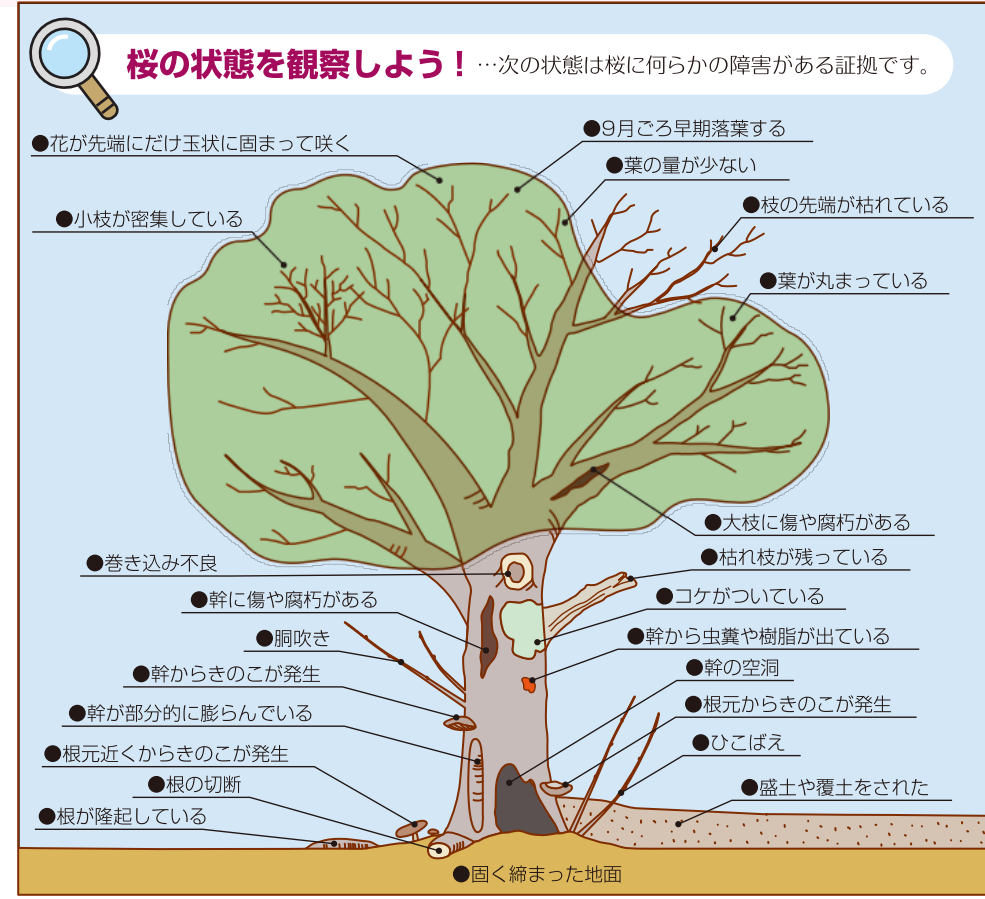
春になると日立市は、美しく咲き誇る桜でいっぱいになります。日立市のシンボルである桜は、市民と企業が力を合わせて煙害を克服した力強い歴史があります。この桜を次世代に引き継いでいくため、桜に興味を持っていただき、今私たちにできることを多くの皆さまに知っていただきたいとの思いから、桜の日常管理

と保全に関する基礎知識について、簡単に取りまとめました。これを桜に関するきっかけとしていただき、「さくらのまち日立」の魅力を向上させ、桜が皆さまの誇りとなり、我がまちの恒久的な財産となるよう、いっしょに「さくらのまちづくり」を推進していきましょう。




## さくらを守る日常管理 樹勢回復より予防が大切

桜を健全に育てるには、今の状態を知り、必要な対策を施すことが大切です。桜は樹齢や育っている場所の環境、管理の状況などにより花の咲き方や枝葉の伸び、幹の状態が変わります。桜はそれぞれをきちんと観察することで、どの様な生育状況であるのかがおおよそ分かります。まずは、桜の状態を観察し、生育に障害があるのかどうかを観察してみましょう。




## さくらを脅かす病害虫

### 増生病



近年、ソメイヨシノの枝の途中が膨れて潰瘍状になったものを数多く見かけるようになりました。日立市内の桜も例外ではなく、病気に罹ると枝はやがて枯れてしまいます。病原菌はまだ判明していませんが、増生病と呼ばれています。この病気は伝染するため、病害は拡大しています。病気に罹った枝は、発見次第適切な方法で切除し、施肥や土壌改良などを行って桜の樹勢を回復させる事が大切です。

### コスカシバ



5～9月に発生した成虫は幹の傷などに産卵します。幼虫は産卵後約2週間で孵化し、樹皮に穴をあけて侵入した幼虫はそのまま越冬し、翌年成虫になるまで形成層のあたりを食害します。そのため食害のあったところの樹皮が荒れ、胴枯れ病や腐朽病などを招き徐々に衰退していきます。殺虫剤による防除の他に、性フェロモンを利用した交信かく乱剤による防除も有効です。

### 見つけたら連絡を!

#### 特定外来生物 クビアカツヤカミキリ



2012年に日本で初めて侵入が確認されて以来、急速に生息域を拡大し、茨城県内でも発生が確認されています。2019年1月には特定外来生物に指定され、飼育・運搬が原則禁止となっています。このカミキリムシは幼虫が桜などのバラ科樹木に寄生し2～3年をかけて内部を食害するため、樹勢が衰退し、被害が著しい場合には、枯死します。幼虫が食害する際に大量のフラス(木屑と糞の混合物)が噴出し根元に溜まるのが特徴です。成虫は体長2.5～4cmで、6月中旬～8月上旬に幹の内部から外に出ます。発見した場合にはその場で捕殺し、速やかにさくら課への連絡をお願いします。

## さくらの管理 年ごよみ

作業	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
見る	樹勢	枝のバランス		花の数				葉の量(早期落葉)			紅葉の状態	
見る	病気	増生病・てんぐ巣病					キノコ類			キノコ類		増生病・てんぐ巣病
管理する	防除					毛虫類						
管理する	施肥	寒肥				コスカシバ・クビアカツヤカミキリ等						寒肥
管理する	剪定	枯れ枝・病気の枝・不要枝										枯れ枝・不要枝

### ソメイヨシノ60年寿命説って本当!?

戦後の復興期に植栽されたソメイヨシノの並木の多くが、長い年月を経て樹勢の衰えが顕著になり、伐採の危機にさらされています。巷ではソメイヨシノの寿命が60年という説が流れていますが、本当にそうなのでしょうか。確かにソメイヨシノの樹勢のピークは樹齢30～40年ですが、きちんと管理されたソメイヨシノは、樹齢が100年以上になっても美しい花を咲かせます。木の元気が無くなり伐採されてしまうソメイヨシノの多くは、人の手による管理がなされず、木の内部が腐朽してしまい自立できずに倒木の危険性があるため、伐採を余儀なくされているのです。



**日立市都市建設部 さくら課**  
 〒317-8601  
 茨城県日立市助川町 1-1-1 本庁舎 5階  
 (令和2年4月発行)

TEL 0294-22-3111(代表) 内線 591  
 IP電話 050-5528-5041  
 FAX 0294-21-7750  
 MAIL sakura@city.hitachi.lg.jp  
 監修 公益財団法人日本花の会

